

本市施設における多機能トイレの表示の在り方の検討に係る聞き取り調査の概要について

調査期間 平成30年6月7日～平成30年6月20日

調査対象 ①支援団体A, ②支援団体B, ③民間企業A(トイレ関連), ④民間企業B(宿泊業)(50音順)

1 LGBT等の性的少数者(以下「性的少数者」という。)のトイレに関する困りごとや現状について

- 男女別に分かれたトイレに対して困難を抱えているのは、性的少数者の中でも、主にトランスジェンダーであるが、トランスジェンダー以外の性的少数者の中にも、困難を感じている方はいる。(①, ②, ③)
- トランスジェンダーの中でも、外見と性自認が乖離している方が、どちらのトイレも使えないという困難を抱えている。また、外見では判別できないので、車椅子の方など、一見して多機能トイレの使用が必要な方に遠慮して、多機能トイレが使えずと聞く。(④)
- 平成27年に実施された性的少数者の方のトイレ問題に関する民間調査において、トランスジェンダーの方のトイレに関する困りごとの上位3つは、(1)周囲の視線が気になる、(2)多機能トイレ利用時に、障害者や高齢者、子連れの方と遭遇すると気まずい、(3)他の利用者から注意されたり痴漢と思われたりしないか不安という、メンタル面に関することだった。
また、同調査では、70%のトランスジェンダーの方は、トイレで不審な目で見られる、注意されるなどのトラブルに遭ったことがあるという結果も出ている。
ほか、性自認に合ったトイレの利用を希望しているが、実際には利用できていない方が多くいる、多機能トイレの利用について希望者が多いという結果も出ている。(③)
- どのトイレにも入れず、トイレに行くのを我慢してしまい、排泄障害を経験している性的少数者の方が少なくない。(②, ③)

2 多機能トイレの表示等について

- レインボーマーク(性的少数者の方のシンボル)の多機能トイレへの掲示については、賛否両論ある。(全団体)
- レインボーマークの掲示があると、「トイレに入りやすい」、「性的少数者への理解を感じる」と賛成する方がいる一方、「性自認に基づくトイレ利用を否定され、多機能トイレを使うことを強制されているように感じる」、「マークがあるトイレに入ることによって、周囲の人に意図せず、自分が性的少数者であると知られてしまう恐れがある」という否定の声もある。
(②, ③)

- レインボーマークの掲示があったとしても、その意味を知っている人がどれだけいるのか。(②)
- 同じ性的指向・性自認の方でも、多機能トイレの表示については意見が異なる。誰もが満足する表示の方法や正解は存在しない。ただし、「誰でも使えます」という表示はあった方がいいという意見は多い。(全団体)
- トイレについては、誰もが使うもので、みんなが当事者である。性的少数者のことだけを考えてトイレの在り方を考えるのは、性的少数者の当事者と非当事者の断絶を深めるだけである。(①)
- 多機能トイレを使いたいと思っているが、車椅子の方などに気兼ねして使いづらい方は、性的少数者だけではない。外見で分からない内部障害を持っている方や、異性の介助をしている方、盲導犬を連れている方など、様々な事情がある。(③)
- 多機能トイレの表示については、(1)そのトイレの機能を示す表示(車椅子の入れる広さがある、オストメイト機能がある、おむつ台がある等)、(2)「誰でも使えます」という文言、(3)性別を問わず利用できることを表すものがあればよい。(②, ③)
- また、多機能トイレでふさわしくない行為(睡眠や飲食などによる長時間の居座り)をする人に対するマナー啓発文があってもよい。(③)

3 その他(ハード面での配慮の方法など)

- 90%以上の車椅子の方が、多機能トイレを使おうとして待たされた経験があるという調査結果がある。一方で、性的少数者を含む、一見して一般のトイレを使うことができそうな方々は、気兼ねなく多機能トイレを使いたいと思っている。
 相反する希望を持っているので、機能が分かれたトイレを併設(車椅子優先のトイレと、車椅子が入れない広さのトイレ)したり、性別を問わず利用できる個室トイレの数を増やしたりすることも必要である。(②, ③)
- 海外では、全て個室で、男女別に分かれていないトイレを使っている国もある。(②)
- タイでは、性自認に基づいてトイレを使うことが一般的なので、外見が男性(心が女性)の方が普通に女性用トイレを使うことができる。(①)
- 外見と性自認が異なる方がいることや、外見で判別できなくても多機能トイレを使わざるを得ない方がいることを、トイレを所管する施設のスタッフや清掃業者、警備員等に教育・周知することも重要である。(③)